

日本国憲法	1年・前期	2単位	教授 吉田 一康
科目カテゴリー	人としての教養	科目ナンバリング	31220161

1. 授業のねらい・概要

日本国民として知っておかなければならない国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解することを目標とする。初めて見る用語が多いかもしれないが、できるだけ分かり易く説明する。

最近、問題になっている憲法改正や皇位継承、自衛隊の海外派遣、平成 21 年から開始された裁判員制度などについても、できるだけ分かりやすく解説する。

2. 学修の到達目標

1. 国民の権利・義務や国の基本的な統治形態についての理解。
2. 自由権などについての独自の価値観の形成。

3. 授業の進め方

1. 50～60 分 配布するレジュメに従って、説明をしながら講義を行う。憲法の第 1 章「天皇」から第 11 章「補則」まで、重要事項について、基本的には条文順に説明する。
2. 30～40 分 配布する練習問題に回答してもらう。また、質問を受け付ける。

4. 授業計画（講義）

1. 講義紹介	9. 社会権（生存権等）
2. 憲法とは（憲法制定まで、硬性・軟性憲法）	10. 財産権・人身の自由（財産権の不可侵等）
3. 国民主権と天皇制（象徴天皇、皇位継承）	11. 参政権（選挙権、被選挙権、公務就任権）
4. 戦争放棄（自衛戦争、侵略戦争）	12. 国会（二院制、国政調査権）
5. 第 9 条関係 DVD（自衛隊の海外派遣）	13. 内閣（議院内閣制、解散権）
6. 憲法の主体（日本国民、外国人、法人）	14. 裁判所（司法・裁判員制度）
7. 基本的人権（法の下での平等）	15. 財政、地方自治、憲法改正等
8. 自由権（思想及び良心の自由等）	

5. 成績評価の方法・基準

積極性 20%（受講態度など） + 期末試験 80%（筆記試験）

6. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しないので、特に購入する必要はない。自習のための参考文献として下記のものを挙げる。

1. 小嶋和司・大石真（2011）：『憲法概観』（第 7 版）、有斐閣双書。
2. 木下智史・只野雅人（2015）：『新コンメンタール憲法』、日本評論社。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

各講義の内容に関する参考文献の該当箇所を読んでくること（1 時間程度）。講義後、授業内容を復習して、レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（1 時間程度）。

8. 受講上の留意事項

私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や、遅刻・中途退席などの目立つ受講者については、評価を減点又は受講を制限する。国際ビジネス学科との合同授業である。

9. 課題に対するフィードバックの方法

1. 各講義で行う練習問題の後に、解答及び説明を行う。
2. 期末試験の後に、解答例を掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

選択科目。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

該当する。本授業は、不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導する。